

長良九条の会

だより 雑林 第3号
No. 114 2016年4月7日

沖繩の痛みを叫べ珊瑚礁
中日「平和の俳句」(中津川市 鈴木鷹子)

蟻の集団における智慧

崇福寺住職 東海康道

英国で国民投票が行われ、EU離脱派が勝利した。しかし、その後から離脱を主導してきた党首の公約などに誤りがあることが指摘された。揚げ句の果てには、離脱に一票を投じた人達も含め、四百万人以上が再度の国民投票を要求し、日本がお手本としてきた議會民主国家が揺らいでいる。

離脱を主導してきた党首が見本としたのは、おそらく米国の共和党のトランプ氏だと思われるが、その彼も当初の支持率の高さからは想像できないほど、低支持率化してきた。

我が国も両者とあなじような手法の政治家が多いのでは。我が国民は英国の国民投票結果と、その後の混乱ぶりを嘲笑していたが、衆参で改憲発議に必要な「三分の二」を与えてしまった今、国民の相当数が不安を感じ出し、自嘲気味になつてきている人も多いのではないだろうか。

さて、昨年は終戦七十年目という節目であったはずだが、特定秘

密保護法や安保関連法案等が衆議院で強行採決されてしまった。

今年はどうであろう。五月に米国の現職オバマ大統領が初めて広島を訪問された。賛否両論あつたが、日本国民の多くは賛同したのではないだろうか。何回も何回も原稿の推敲(すいこう)をされたと言われていたが、あのスピーチには言霊(ことだま)が宿つていたように感じられた。大きな歩であつたと思つ。

翻(ひるがえ)つて考えると日本はどうであろう。現内閣は、はたして安倍総理にハワイの真珠湾等を訪問するよう進言し、環境整備に努めているだろうか。現況では否である。相手国に求めるだけでは、恒久平和は訪れない。

英国・米国・日本を引き合いに出したが、このような傾向は、世界中に蔓延(まんえん)しているような気がする。

ここで閑話、蟻の話をすることにしたい。

北大大学院の研究チームによると、集団内には必ず一定(二〜三割)の怠けアリが存在し、その方が長くその集団を維持できるという。普段、働きアリたちは一生懸命働いているが、疲れて休まなければならなくなる。そのような時に、卵にカビが生えないために、怠けアリたちが交替で世話をしていることを証明したそうである。集団内で、怠けアリ(こんな言葉遣い、アリさん許してネ!)が排除されないのは、このような理由があつたのである。

いつの世も、〇〇にとつて都合のよい物差しが作られ、それから外れようとするとそれは排除され、戦争という悲惨な結末を招くことになりかねず、弱者はいつも涙を流すことになる。

仏教教団も結果的に戦争に協力し、かなりの教団が戦後、時間差はあるものの内外に懺悔(ざんげ)文を出したが、いまだに沖繩は米国の統治下にあるような現況を考えると、蟻に教えを請(こ)い、二度と開戦にならないよう、鮮明に「戦争反対」を発信し続けていく必要がある。

市民が主の選挙もつと (中B 7/21)



吉田 豊 無職
(名古屋市千種区) 65歳
参院選が終わって私が一番に思つたことは、選挙が変わってきたということだ。これまで選挙と言えば、一番いい候補者や政党を選んで票を入れるということであつた。しかし、今回は一人区では市民が間に入って候補者をつくるということが行われた。市民運動から推された人が無所属で立候補したり、市民団体が調整して候補者をまとめた。政党の方が従って、市民が主という場面が生まれた。

もう一つ、市民団体が提出した「要望書」に野党や候補者が調印をした。示された政策から選ぶのではなく、市民の側が政策をつくるということが起きた。昨夏、国会前でわきおこった「民主主義って何だ」の答えが、参院選の中で姿を現してきたように、私は感じる。十八歳選挙権もようやく実現した。

これからは、被選挙権(立候補)の年齢の引き下げや供託金の軽減、選挙運動の制限撤廃などで、選挙がより市民に近くなつて投票率が上がることを願う。





澤地久枝さん 改憲へ歩み 「絶望しない」

さわち・ひさえ 1930年東京・青山生まれ。4歳で渡った満洲(現中国東北部)で終戦を迎える。早稲田第二文学部卒。72年「妻たちの二・二六事件」作家デビュー。86年、ミッドウエイ海戦の克明な調査で菊池寛賞を受賞した。2004年「九条の会」結成で呼び掛け人に。15年、安全保障関連法や原発再稼働を進める安倍政権に反対する「アベ政治を許さない」のメッセージを全国で一斉に掲げる行動を呼び掛けた。

選挙中、安倍首相や自民党は憲法について何も語らなかった。けれど、首相は、在任中に改憲を成し遂げたいとはっきり言っているのだから、憲法にとって瀬戸際の選挙だった。
安倍政権下での改憲に反対の人が多いのに、それが投票先を決める理由にならない。給料は上がらず、物価は高くなってみんな生活が苦しい中、今の政権で何か良くしてもらえはという気持ちで日本人の中にあるからだ。経済状況が悪くなると、人びとは国家権力に頼っていく。生きるということに対して無関心な人も、増えたようにみえる。
戦争で家族を亡くした人がいっぱいいて、一面焼け野原のひと時代、憲法は生まれた。その時は国会正門に行きます。

7/12 (中日タ)

参院選で改憲勢力は全議席の三分の一を占め、改憲を推進する条件が整った。護憲派の市民団体「九条の会」呼び掛け人で、ノンフィクション作家の沢地久枝さんに選挙結果について聞いた。(小林由比)

7/7 朝日

自民党の憲法改正草案を読もう

主編 関根 雪子

(埼玉県 73)

参院選の結果、憲法改正に前向きな勢力が衆参両院で三分の二を達し、ついに改憲が現実味を帯びてきた。自民党の憲法改正草案を読んでみる。

まず前文の主旨が「日本国憲法」に変わる。天皇は「元号」に変わる。日本国憲法は「国政及び国防の尊厳維持を目的とする。第二條は流石憲法の一戦争の放棄から安全環境に変わります。「一國一憲法」の原則が設けられています。第二章「国民の権利及び義務」第一條は憲法が創設された第一の根本的人権が創設された...

「9の日」行動のお知らせ

8月9日(火)4時~4時半
(雨天の時は16日)

サン마트長良店前

アベにも暑さにも負けてもらえませんか。時間の許す方、どなたでも一緒に!



長良北町スタンディング

安保法制が強行採決される昨年9月中旬より毎週(木曜日)夕方4時半~5時「憲法守れ!」「戦争法は廃止!」とアピールしています。30分立っているだけです、こちらも参加してください。お待ちしております。

—長良北町バス停の南西角—
長良北町スタンディング有志より

「改憲への『3分の2』 高知で83%意味知らず」

(高知新聞7月5日—100人に聞いた結果)

「テレビの参院選番組は前回の参院選と比較して2割減った」(日経タ刊7月9日) そうです。若い世代は、パソコンやスマホの無料で読める情報(産経新聞など)を得ています。私たちが常日頃得ている情報は、政権の意向に沿ったものが多いことを知っておく必要があると思います。(Y)